

## 平成 28 年度 第 4 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 29 年 2 月 3 日 (金)  
開会 14 時 05 分 閉会 14 時 50 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦  
委 員 北村 嘉章  
委 員 野田 美和子  
委 員 蘆邊 千鶴子  
委 員 吉原 慎吾

(事務局関係)

総合政策部長	早松 利男
総合政策部 経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 経営政策課主幹	出口 真澄
教育委員会事務局 教育次長	山本 裕
教育委員会事務局 シニアマネジャー	柿本 欣也
教育委員会事務局 未来の教育課長	廣田 恵子
教育委員会事務局 学校教育課長	波佐尾 雅人
教育委員会事務局 学校教育課担当課長	松村 清子
教育委員会事務局 青少年育成課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 教育庶務課長	吉田 均
教育委員会事務局 教育庶務課参事	池田 美和子

4 討議事項 松東地区統合小学校のあり方について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・骨格予算ではあるが、現在、新年度予算を編成しているところである。教育に係る予算は毎年増えて 50 億円を超え、さらに来年 4 月には公立大学の開学によって一層増えるが、これは良いことだと思う。世の中が不況であっても、きちんと人材育成をしていくことは、小松市の良き伝統であると思っている。
- ・今日で 2 回目となるが、里山の 3 小学校の統合についての考え方を話し合いたい。

○討議事項

松東地区統合小学校のあり方について

〈事務局：山本教育次長〉【資料1】により説明

- ・松東地区3小学校は平成30年4月に統合し、新しい学校としてスタートすることが決まっている。
- ・新しい学校の基本構想を構築するにあたり、まず、子供たちが大人になる頃にどんな資質・能力が必要とされるのか考えていった。
- ・今の小学校、中学校の枠組みではできないこともある。それを実現できるのが、義務教育学校という新しい形態である。
- ・グローバル化が進む中、松東地区の子供たちがたくましく自己実現を果たすとともに、地域や社会の一員として貢献できる人材を育てていく学校にしたい。
- ・そういう理想的な学校を作ることができれば、小松市全体の教育力アップにもつながる。

〈議長：和田市長〉それでは、まず、今の説明に対して皆さんからご質問はないか。

ー委員からの質問なしー

〈議長〉では、討議に入りたい。皆さんからのご意見をお聞きしたい。

〈北村委員〉・統合して新しい学校を作るというコンセプトで、長期的にどういう人材を育てていくのか、どういう特色を持って学校運営を行っていくのかということがよく分かった。

- ・小中一貫教育の開始時点から、義務教育学校という考え方を持ってやることで、スムーズに平成33年からの義務教育学校のスタートが切れるのではないか。
- ・校長をはじめ管理職に対してきちんとしたレクチャーを行い、教育委員会の方針を周知徹底し、教職員の方々と共有していかなければならない。

〈吉原委員〉前回の会議で申し上げた、松東地区の各学校の歴史や文化などの特色を上手く取り込んでいただけたと思う。4校によるスタンダードな取り組みが、現実には具体的な形になることを希望する。

〈蘆邊委員〉小学校3校が統合され、子供たちが勉強していく上で現状よりも良い環境になるように、子供たちがそれを実感できるように、最初の3年間でとても大切な時期であると思う。実際にやってみていろいろな問題も出てくると思うので、先生方や学校、地域で共有して解決しながら、最初の3年間をしっかりとってほしい。それが上手くできれば次の義務教育学校に進んでいけると思う。

〈野田委員〉これまでの考え方は他校との違いがあまり見られなかったが、今回、グローバル科、コミュニケーション科、1人1台タブレット端末を取り入れるなど、特色のある

すごく良い学校になる気がしている。自分の子供を通わせたいと思える学校になってきている。これをぜひ実践していただきたい。

〈石黒教育長〉・新しい学校を作るには、どういう子供たちを育てるのかという目標（ゴール）が大事。目標はいろいろとあるが、新しい時代に対応する力を付けるということである。

・学校、地域がそれぞれで育てる部分と、学校と地域が協力して育てる部分を分けて考える必要がある。知・徳・体の3つを育てていくほか、もう一つは意欲も大事にしていきたい。そういうフレームの中に様々な文言が入っているということだと思う。

〈議長〉さらに加えた方が良いものなど、個別の話をお聞きしたい。

〈吉原委員〉お話を聞きして3つほど感じたことがある。一つは、義務教育学校としての具体的な運営スタイルをいかに構築するか。2つ目は、先生側の人材の育成。3つ目は、義務教育学校はどういう学校なのかを保護者も含めて周囲にいかにPRしていくか。これらが必要であると思う。

〈議長〉西尾小学校は今も広域通学になっているが、新しい学校も広域でということによるのか。

#### ー委員からの異議なしー

〈議長〉部活動について今回は触れていないが、教育長のお考えがあれば聞かせてほしい。

〈石黒教育長〉・小学1年生の段階から英語を重視していきたい。コミュニケーションとしての英語を学ぶときには情報の力が必要であり、パソコンを使って海外とつながるといったこともやりたいと思う。

・文化も大事である。地域が子供の人間性を育てるという視点からも、地域の伝統文化に力を入れたい。

〈野田委員〉波佐谷小学校に通う子供たちは3世代の子が多く、親だけでなくおじいちゃんやおばあちゃんが、孫たちのことをしっかり見てくれているという特長もある。

〈蘆邊委員〉素晴らしい自然環境を活かした体験や、自然の中を駆け巡りながらの体力づくりなど、ここでしかできない科目があっても良いと思う。

〈北村委員〉・小学校の先生は、子供たちが中学へ行った後もどうなったのか責任を持ち見守っていかなければならない。9年間一体で責任を持つということが義務教育学校の制度化になったのだと思う。

・一つ一つを実践し、PDCAサイクルを徹底してやっていただきたい。

- ・小松に義務教育学校ができるということは大きなチャンスである。全国から視察が来るようなモデル校にしていきたい。小松市の全国発信、小松の教育力の向上につながるよう、新しい学校には特に優れたベテランの校長先生を配置してほしい。
- ・広域通学の趣旨が時代とともにずれてきていると感じている。本来は自然を活かした教育や西尾地区のビジョンに則った広域通学であるべき。趣旨を理解した児童を募集することが大事であり、広域通学の人数が多いか少ないかで、この学校が成功するのか失敗するのかがかかっていると思う。
- ・義務教育学校では、中学校の先生が小学生に英語を教えてあげることができ、大変恵まれた環境だと思う。また、この地域は自然が豊かである。英語や理科に特化した学校づくりを目指してほしい。
- ・市立高校や公立小松大学との連携を踏まえたカリキュラムも将来的に検討すべきではないか。小松らしい全国から注目される義務教育学校になるのでは。
- ・グローバル科、コミュニケーション科も良いが、漠然としたものでなく、分かりやすい名称で新たな科目を設けることが大切である。

〈議長〉教育長から何かないか。

- 〈石黒教育長〉・義務教育学校では新たに1教科を創設できる。その1つの枠をどう効果的にしていくかが大事である。クラブや部活動に散らばせて効果的にしていくこともできる。
- ・市立高校との連携という話もあったが、音楽や美術などで先生の交流があっても良いと思う。

〈議長〉先生だけでなく生徒も交流できると良い。教員を目指す学生のインターンシップなど、つながりを持たせていきたい。

〈北村委員〉新設は1教科であるが、総合学習の活用が大切。ねらいを定め、連動しながらやっていかなければならないと感じた。

〈事務局：教育次長〉創設できる教科は限られているが、それを補完するためだけでなく幅を広げるために総合的な学習を十分活用できると思う。学校独自で子供たちの状況を見ながら改善していくこともできる。

〈議長〉事務局の皆さんから何かないか。

〈事務局：学校教育課長〉統合された学校に通う児童やその保護者、地域の方々が誇りに思い満足できる学校になることが第一次的な目的であると思うが、小松の魅力を高めるという大きな役割も担っていると実感している。住みよい魅力ある小松をさらに良くするという立場でも進めていきたい。

〈事務局：未来の教育課長〉松東地区は自然環境に大変恵まれており、カリキュラムも今後進んでいくと思う。その補完となるのがICTの活用ではないかと考えている。直接体験できることは学校の環境で、間接的には、例えば英語はスカイプなどを通して姉妹校や海外の学校とも話ができたら良い。ICT環境は欠かせないと思う。

〈事務局：青少年育成課長〉どういった人材を育てていくのか、そのために学校と地域で協力してどういったことができるのかという視点で、皆さんの理解と協力をいただき、一緒に考えていきたい。

〈事務局：学校教育課担当課長〉給食は、その素材を活かしたもの、そこでしか食べられないものといった、特色のあるものを取り入れていきたい。

〈議長〉義務教育学校は現在全国で22校あるが、そういう学校と姉妹学校、連携などをすれば、交流が広がるのではないか。

〈事務局：総合政策部長〉平成30年4月に3校が統合され、同じ時期に公立小松大学の開学が予定されており、正に平成30年は小松の教育が大きく変わるタイミングである。質問になるが、平成33年にできる義務教育学校は、小学校と中学校で一つの学校になるのか、それとも3校統合された学校は小学校として残るのか。平成30年に作った学校名や校歌、校章など、3年でなくなってしまうのか。

〈事務局：教育次長〉平成33年には小中で一つの義務教育学校になる。統合小学校の校名や校歌を考える段階で、33年の義務教育学校スタートを前提に決めていく必要がある。

〈事務局：総合政策部長〉平成30年4月に義務教育学校として一気にスタートすることに何か支障があるのか。

〈事務局：教育次長〉制度的には校舎が離れていても義務教育学校とすることはできる。問題点として、義務教育学校になった場合は校長が1人となり、離れた校舎を1人の校長が管理するのは難しい。今のところ、この形で進めていきたいと考えている。

〈議長〉今の問題提起に対して何かコメントはないか。

〈吉原委員〉無理のないスケジュールの方が良いと思う。

〈野田委員〉平成33年から上手くいくための準備期間がいると思う。

〈蘆邊委員〉最初から義務教育学校にしてしまうのは、人的なこともあり難しいのでは。段階的に進めた方が良いのではないかと思う。

〈北村委員〉統合小学校スタートの時点で、平成33年にはこういう学校にするという考えを持ち、義務教育学校の考え方の基で、細部にわたってデメリットの部分も考えてやらなければならない。子供たちのことを考えれば、この移行スタイルが一番良いと思う。

〈石黒教育長〉・一貫教育と義務教育学校の違いは、学校が近いということ、先生の交流があるということ。大きな違いは新しい教科を新設するかしないかということである。  
・学校が教育力を持つためには制度も大事であるが、中のソフト（先生と子供たちの方向性）がしっかりしていることが大事であると思う。  
・いつでも本番ではなく一つ前の段階で次の段階を狙うということが、エネルギーになっていくのではないかと考えている。

〈議長〉先程の問題提起の続きだが、中学校でも1教科プラスできるのか。

〈石黒教育長〉9年間1教科プラスできる。

〈議長〉そうすると、早くできるなら早いに越したことはないと思うが。

〈石黒教育長〉その辺はもう少し検証させていただきたい。

〈議長〉3年間は子供たちの成長を考えると大変重要な年数であると思う。この部分については教育委員会でぜひ考えていただきたい。そのほか、ご質問やご意見はないか。

〈蘆邊委員〉・3校は谷が違い、西尾から波佐谷に行くとなるとかなり遠い。スクールバスなど考えていると思うが、帰りのバス時間とクラブ活動の兼ね合いなど考慮しなければならないと思う。  
・3校の子供たちは、それぞれの学校のポリシーがあり、育ってきた環境も異なる。子供たちの心を大切に、同一化しないよう配慮しながら進めていってほしい。

〈議長〉すでに松東中学校はそれぞれの地域性も維持しながら一つの集団としてやっている。そのような心配はないと思っている。

〈石黒教育長〉ここ1、2年はある教科や行事などを通して、3校の児童が集まって同時に学習する機会を設けている。帰りのバス運行や時間については、万全を期した体制を整えていただけるとのことである。

〈議長〉すでにバス2台を用意している。

〈蘆邊委員〉西尾小は低学年が3人しかいない中、児童が何倍にも増えるとなると子供たちのプレッシャーも大きいと思うので、配慮していただくとありがたい。

〈北村委員〉教育委員会でいろいろな施策を講じるが、なかなか浸透しない。平成30年に3小学校が統合されること、33年に義務教育学校がスタートすることを事前に周知し、分かりやすい目に見えるものをPRして、理解を得ていくことが大切だと思う。

〈吉原委員〉今回のテーマと直接関係ないかもしれないが、平成30年4月以降、金野小と西尾小の校舎はどうなるのか。いずれも立派な建物であり、卒業した人たちにとって大切なものである。

〈議長〉校舎の後の活用は考えている。波佐谷小もいずれその時期が来る。全部残すかどうかは決定していないが、思い出の詰まった大事なものなので残すべきだと思う。

〈野田委員〉これまで小規模校だったのが人数も増えて切磋琢磨できる、子供たちにとって良い環境になると思う。向上力や意欲も出て、どんどん伸びていくことを期待している。

〈議長〉この考え方を含めたスケジュールを今年の4月には明示し、最終的には地域やPTAの理解を得なければいけないので、作業を進めてほしい。3月にもう1回まとめとして会議を開き、最終的な皆さんのご意見をいただいた上で、スケジュールなどを決定したい。

○閉 会